令和４年度第１回 支えあいのまちづくり協議体　情報交換会議事録

「支えあいのまちづくり協議体」は、中央区在住・在勤者ができる支えあいの形について、身近な地域で話し合うことを目的に、令和２年度より京橋・日本橋・月島の３地域ごとに話し合いを重ねています。今回、各地域のこれまでの議論や取り組みを共有することによる今後の取り組みの推進と、顔の見える関係づくりを図るため、リーダー・サブリーダーとの情報交換会を実施しました。

1. 実施日時
　令和４年６月22日（水）10:00～11:30

2. 出席者
　３地域の支えあいのまちづくり協議体（第２層協議体）リーダー・サブリーダー　６名
　第１層生活支援コーディネーター　１名
　第２層生活支援コーディネーター　６名
　（陪席）高齢者福祉課高齢者活動支援係　１名

3. 内容
- 出席者紹介
- 各地域でのこれまでの取組報告（各資料参照）
- 質疑応答
- 意見交換（全域で取り組めること、共通点や参考になったことなど）

4. 概要
- 区内のサロン等について、地域を越えて利用して良いことを周知する必要がある。
- 区や社協が発信している情報をどう周知するかが課題。
- やることは新しくとも、アナログな繋がり、顔の見える関係づくりも必須。
- つながりをつくりたい人と、外出をするのが億劫になっている人が二極化している可能性。地域のイベントのあり方を考える必要

5. 意見交換詳細

●第２層協議体について
- 会議に参加し、自分では得られない情報が得られるのが嬉しい。地域の一員になれた感覚が得られていてありがたい。
- 会があることが楽しい。回を重ねるごとに良い雰囲気になっていると感じている
- 生活支援コーディネーターのおかげで具体的な取り組みに出来ていると思う。メンバーは意見を言っているだけで申し訳ないが、一緒に取り組めていることが嬉しい。
- スマサポまつりをきっかけに LINE を始めた。遠方に住む家族と連携して服薬管理をするなど、協議体メンバーも活用する機会になった。

●地域ごとの取り組み報告を受けて
- 月島のように、特定のマンションで取り組みを始めてみるなどのモデルケースを作っていけたらよいのではないか。
- 通いの場等は、地域を超えて参加している人（日本橋→月島、区外から参加など）がいる一方、

地域が違うと参加してはいけないと感じている人もいる。
→地域をまたいで社会資源を紹介できるよう、全域のマップがあるとよい。
・高齢者の方のハードルを下げるのは『口コミ』。チラシや YouTube などでお知らせしつつも、直接渡すことで行く気になる可能性が高くなるのも現実。やることは新しくても、やり方はアナログ、が良いと思う。
・つながりたくてもつながれない状況。メンバーができることをすればよい。
・ICT について相談できる場が分かるようなマップや冊子が欲しい。
→区で作っている（別紙参照）
→周知する方法について第 1 層協議体でヒントをもらえないか。
・コロナを機に連絡先を聞くようになった。参加しなくなった方への連絡や、手紙を送るなどの新たな交流も生まれた。
・地域の高齢者はつながりをつくりたい人と、外出をするのが億劫になっている人が二極化しているように感じる。家族構成によるところもあると思うが、身近な地域でイベントがあれば出やすいかもしれない。
・ラジオ体操に参加する高齢者も増えてきているように思う。
・顔の見える関係から始めることが大事。自分自身が広告塔となり、この人がいるから行こうと思わせることも必要。

以上